

も近くにいた人たちがひたひたに死んでいき、自分だけが残された」と絶望の体験を書いた。男性は当時まだ小学生だった。「普通の人の死は『兵隊さんの戦死』に比べて軽く扱われ、私も泣くこともなかった。(自分が)成人になってから、母や弟の死で何回となく涙を流した」と応募の動機を記している。

新潟市の女性(82)は「人生が終わり、戦後の混乱期にまで広がった。旧満州(現中国東北部)からの命懸けの引き揚げや、進駐軍の様子を描い

ちが世相を皮肉って作った流行歌の替え歌を紹介する男性もいた。ある女性は亡夫が疎開中に友人と交わした手紙を送ってきた。「夫の遺品を整理していたら行李にぎっしり詰まっていた」  
今回は対象時期を戦争中だけでなく、戦後の混乱期にまで広げた。旧満州(現中国東北部)からの命懸けの引き揚げや、進駐軍の様子を描い



「喜しの手帖」に寄せられた手記。ネットでも募集しているが原稿用紙に手書きの原稿が多い。宮間俊樹撮影

## 政府発表の分析こそ重要

先月29日、北朝鮮が弾道ミサイルとみられる「飛翔体」を发射したを受け、政府は避難警報である全国瞬時警報システム「Jアラート」を発信した。今月3日の核実験を、政府はこれまで以上に強い表現で非難した。備えを呼びかける政府広報がテレビや街頭で頻繁に流れている。テレビや新聞、雑誌は大きく扱っているが、このような有事に関わる報道には通常とは違う構えが必要になる。

困難で、政府発表を唯一の情報源として報道せざるを得なくなりがちだ。北朝鮮側からの情報はほぼゼロで、取材する機会も極めて限定的だ。政府は国家安全保障会議(NSC)の議事録を公表しないこととしており、事後の検証も不可能だ。政府の意思決定が密室で行われ、意図的なリークによる情報操作がされやすい環境にある。メディアは自分たちの流す情報が絶対ではないことを、きちんと伝える必要がある。

### 「有事」に関わる報道

政府は国家安全保障会議(NSC)の議事録を公表しないこととしており、事後の検証も不可能だ。政府の意思決定が密室で行われ、意図的なリークによる情報操作がされやすい環境にある。メディアは自分たちの流す情報が絶対ではないことを、きちんと伝える必要がある。

自国の政府が他国と対立し、とりわけ自国民や最前線に立つ人々が生命の危険に直面している場合には、メディアは今も昔も国益擁護のために、こぞって無批判に政府を支持しがちだ。現に報道機関やジャーナリストの中にも「ニュースの判断基準として、国益に反する報道はすべきではない」とする考えが広がっているように見える。有事には、テレビ・ラジオの放送事業者は、国民保護法に基づく指定公共機関として政府に協力することが要請される。

### ジャーナリズム ウオッチ

山田健太



情報の出所が政府に限定されると、報道は質、量ともに政府方針に沿う危険をはらむ。その中で有事の可能性を報じることが相手国への悪い感情をあおることにつながる。さらに、日常

が広がっているように見える。有事には、テレビ・ラジオの放送事業者は、国民保護法に基づく指定公共機関として政府に協力することが要請される。

「戦争中が担当し集部員の都杉並区

8年夏にも、第二五人たちの生活体験の喜しの記録」と題している。読者の手冊すべてを埋めた売り切り、10万部として現在も発行。当時、既に戦後20編集部員だった河津よると、初代編集長(78年)が若い部員「疎開」「防空壕」った戦争中の言葉を驚いたのがきっかけ。誌面に見開きの社説募った。「あのころにでもあったよう、事についての記録が「必ず事実だけを」と訴えた。「軍隊は除きます」とこと

「喜しの手帖」は8年夏にも、第二五人たちの生活体験の喜しの記録」と題している。読者の手冊すべてを埋めた売り切り、10万部として現在も発行。当時、既に戦後20編集部員だった河津よると、初代編集長(78年)が若い部員「疎開」「防空壕」った戦争中の言葉を驚いたのがきっかけ。誌面に見開きの社説募った。「あのころにでもあったよう、事についての記録が「必ず事実だけを」と訴えた。「軍隊は除きます」とこと